

## 高知大学演習林の近況（平成 30 年度）

高知大学農林海洋科学部附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター森林生産環境部門 平成 30 年度中国・四国・近畿地区大学附属演習林等技術職員研修を、11 月 13 日（火）から 16 日（金）までの日程で、嶺北フィールドにおいて開催した。前回、高知大学が当番校となり実施した平成 24 年度の研修では作業道開設が主なテーマであったが、今回は平成 27 年度に導入された 0.25m<sup>3</sup>クラスベースマシン用プロセッサヘッド（イワフジ GP-25V）と 3t クラスのフォワーダ（イワフジ U-3C）を活用し、人工林の伐出作業をテーマとして、伐木から集造材を経て木材共販所への出荷までの一連の工程を通じて伐出作業の技術向上を図るものとした。研修生は、東京、静岡、名古屋、京都、鳥取、愛媛の各大学からの技術職員合計 8 名（高知大学の技術職員 1 名を含む）であった。研修講師は高知大学の技術職員および教員が担当した。

初日は農林海洋科学部における開校式の後、高知県森連本部の CLT 建築庁舎を見学し、演習林に移動して実習地の下見を行った。その際、平成 24 年度の研修で作設した作業道も見学し、この実習にも参加した研修生には良い振り返りとなった。夕方には愛媛大学山田容三教授に、作業と安全に関する講義をしていただいた。2 日目と 3 日目は研修生を 3 班に分け、伐木・集造材・積込みと出荷の 3 種類の実習を交代で行った。伐木は、集造材作業も実施した林道沿いの皆伐地と、間伐として突っ込み線形作業道約 600m の終点付近にある壮齢ヒノキ林でも実施した。なお、皆伐は、学生による植林実習とその後の下草刈り実習のために毎年 0.2 ha ほど計画的に実施している。集材は、この研修用に準備した 0.25m<sup>3</sup>クラスのウィンチ付きグラップルのレンタル機も併用し、所有機材の 0.08m<sup>3</sup>クラスのグラップルと 0.25m<sup>3</sup>クラスのプロセッサにより行った。

プロセッサによる造材では、初日の下見時に操作方法の概要を学んでおき、2 日目と 3 日目の班毎の実習で作業の習熟を図った（写真 1）。実習初日に油圧ホースが損傷するトラブルはあったが、メンテナンス業者の迅速な対応により、実習 2 日目には修復され、各研修生ともに十分な実習時間を取ることができた。積込み実習では、フォワーダあるいは 3.5t ユニッククレーン付きトラックに、プロセッサ造材後の桤からグラップルにより積込む作業を複数回実施できた（写真 2）。間伐を実施した作業道から林道までの数 100m は、フォワーダによる実搬送の実習として運材を行った。トラックによる 20km ほど離れた木材共販所までの出荷も、各班 1 回ずつは経験することができた。最終日の午前中は演習林宿舎において、経費と生産性、および木材流通に関する講義を行い、閉校式をもって研修の修了とした。天候にも恵まれ、夜は作業のビデオを見ながらの反省会により技術向上に関する意見交換も行うことができ、実りの多い研修となった。

（部門長 鈴木保志）



写真 1 プロセッサによる造材の実習



写真 2 グラップルによる積込みの実習